

「基本は、セーフティ・ファースト」

塩性植物シチメンソウ群生で有名な佐賀市東与賀町に在る株式会社大神【ダイシン】（吉村正社長）は、物流・産業システム機械、設計施工を行う従業員約 80 人の企業です。

「人と仕事の調和をめざす」を企業理念として創業から約 50 年が過ぎ、お客様の要望を形にするオーダーメイドの省力機械メーカーとして実績を積み上げてきました。以前よりポリテクセンターの能力開発セミナーを利用して、社員の各種の技術を研鑽、弊社の組織づくりに活かしています。



（吉村 正社長）

弊社の製品では、特に食品メーカーから定評をいただいております。炒め飯製造装置、菓子自動箱詰装置や地元農家向けの電動収穫台車など創造性に富んだものづくりを推進しています。お客様から届く厳しい要求事項についても、全社を挙げて知恵と工夫で応え、特に装置産業として納品時に不可欠な現場据え付け作業での安全確保には細心の注意を払って社内での安全研修も続けてきました。

今回、ポリテクセンター佐賀より生産性向上支援訓練の紹介を受けたタイミングが、弊社の受講スケジュール希望の 7 月の全国安全週間時期でもあったため、「事故をなくす安全衛生活動」を受講することとし、職場の安全衛生の改善につなげることにしたい旨の要望に応じていただきました。定例的で形骸化しやすい安全衛生活動への意識向上策を現場の点検を交えながらのカリキュラム内容に仕上げ

ていただきました。今までに無い点検項目の視点や不安全箇所の拾い出しを含めた内容で、弊社内の問題解決につながる即効性のあるカリキュラムが現場の視点で出来たこと、受講料や派遣費用がリーズナブルであることが受講決定の理由となりました。

受講者からは、「作業や作業スペースが仕事の効率化につながる事が理解できた」、「5Sの『なぜやるのか』の改善方法が勉強できた」、「会社内の様々な危険性を改めて知ることが出来た」などの感想がありましたので、社員の安全意識向上につながり、職場の安全意識改革に一石を投じることが出来たのでは考えています。

また、7月の労働安全月間内に実施し、弊社の月間内の取組みのタイミングからも、好成果を期待できる研修になったと弊社管理部長も評価しています。



（研修風景）

今後の計画では、社内のリスク管理という視点を高める必要があると考えており、昨年佐賀県内の豪雨災害の実情から、今後の豪雨災害時の資材搬入計画や納品期限から見た自社サービスの展開も視野に入れると、生産性向上支援訓練コースの「災害時のリスク管理と事業継続計画」を受講して、いわゆる「BCP」の課題と対策をマニュアル化する作業の必要があると考えているところです。今後も弊社の階層別研修の充実に必要性を感じており、継続的な研修機会を生み出すためにもこの生産性向上支援訓練制度を継続していただきたいと願っています。